

DT弁護士法人
マネージングディレクター
原田 優美

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。

Q. 弁護士になってからの歩み、入社経緯を教えてください。

2001年に法律事務所でキャリアをスタートし、エクイティファイナンス案件や金融規制対応などをメインに経験を積みました。

その後、アメリカに留学、帰国後にプライベート・エクイティ投資の会社に2年ほど出向した後、出産をきっかけに働き方を見直し、外資系の不動産サービス会社にインハウスとして転職しました。その会社には9年在籍し、後半の5年半は法務部長を務め、ビジネスリーダーと共に会社全体の成長を追求する、会社全体のガバナンスを見ていくというインハウスのやりがいも感じました。

一方で、自分のキャリアを考えたとき、専門家としての知見を広げ、自分で案件をハンズオンで担当したいという気持ちが強くなり、もう一度法律事務所に戻ってみようと決め、2025年にDT弁護士法人に入りました。



Q. 現在の主な業務内容と、担当している案件の特徴を教えてください。

現在は、金融分野や不動産分野を中心に担当しています。金商法や銀行法など金融規制のご相談、不動産取引、不動産ファンド、不動産会社の新規ビジネスや組織再編などの案件を担当しています。

また、ほかの法律事務所にはあまりない業務として、コンサルティング的な要素の強い仕事にも関わっています。例えば、法務部の業務効率化やAI導入のアドバイス、営業部と法務部の連携についての現状分析や改善支援といったものです。この分野については、会社組織で法務部長をしていた経験をそのまま活かしていると感じています。

Q. DT弁護士法人ならではの強みや特徴は、どのような点にあると感じますか。

DT弁護士法人の強みは、扱う案件の幅の広さと新しさにあると思います。

デロイトトーマツグループ全体としてビジネスのあらゆる領域に積極的に関与し、新しい分野にも非常に速いスピードで取り組んでおり、法的な論点はDT弁護士法人が担当します。そのため、DT弁護士法人としても常に世の中の変化に触れながら、多様な案件に関わる機会があると感じています。

また、グループ全体でAIの実装を積極的に進めていて、弁護士法人でも様々なツールを導入しています。今後はAIをいかに使いこなすかで業務効率やサービスにかなりの差が出てくると思いますので、色々なツールを試すことができ、環境的に恵まれていると思います。

Q.デロイト トーマツ グループ内の他法人・他部門と連携する場面について教えてください。

他法人のクライアントのさまざまな課題について協働させていただくことが日常的にあります。他法人の方もそれぞれの分野での一流の専門家であり、勉強させていただくことが多いです。

また、法人横断での業界セクターごとの活動もあります。私自身は不動産・アセットマネジメントのセクターに関わっていて、他法人のメンバーと情報交換をしながら、どのようなサービスを提供できるかを一緒に考える機会も多いです。

新しいビジネスチャンスを考えるヒントがたくさんあるので、弁護士や法律事務所という枠を超えた広がりがありうと思っています。また、グループ内の法人の方と協働するときは、インハウスの動き方や距離感と近い感覚があり、ここでもインハウス経験が生きていると感じます。



Q. ご入所後に担当された案件の中で、特に印象に残っている案件について教えてください。

一つ目は、企業価値担保権の案件です。まだ施行されて間もない担保制度ですが、地銀各行さんでの体制整備、案件実行のサポートをしました。銀行実務に詳しいコンサルティングのチームが業務運営についてのコンサルティングやマニュアル整備を行い、我々リーガルチームは新法の解釈や従来の担保制度との関係など、法的な観点からアドバイスをしました。会計のチームも参加しており、デロイトならではのワンストップサービスと言えたと思います。

二つ目は、法務部や法務業務周りの体制、業務やオペレーションに関するコンサルティングの案件です。ビジネスの流れがとても速い中で、法務業務もますます幅広く多様になっていますし、AI導入によりどのように全体を効率化できるのか、法務人材をどう育てていくのか、評価制度、あるべき法務部像など、各社さん悩まれていると思います。デロイトにはコンサルティングに関するノウハウがあり、弁護士法人にも様々なバックグラウンドの人材がいますので、法規制、リスクマネジメント、テクノロジーなど、多様な視点からの分析・提案ができるのではと思います。

三つめは、法改正により投資運用業者のコンプライアンス業務の受託業の制度ができたので、デロイトでもコンプライアンス業務の提供サービスを拡充しようとしており、その件にも関与させて頂いています。このように、法改正や時代の流れに対応した色々な案件があり純粋に楽しいなと思っております。



Q. DT弁護士法人で「女性も長期的にキャリアを築きやすい」と感じる点があれば教えてください。

私は「女性であること」を特に意識せずに働ける職場こそ、結果として女性も長期的にキャリアを築きやすい環境だと思っています。

男性・女性にかかわらず、子育てや病気、介護など、それぞれのライフステージや事情に応じて柔軟に働き方を調整でき、成長の機会を与えられることが重要だと感じています。

その意味で、DT弁護士法人は個々の事情に対して柔軟に受け止めてくれる、懐の深い雰囲気があると感じています。働き方についても画一的ではなく、状況に応じた調整がしやすい環境なので、長期的にキャリアを築きやすいと感じています。弁護士法人は穏やかで落ち着いた方ばかりで、働きやすいです。

Q. これから入所を検討している方へのメッセージをお願いします。

AIの進展によって、これから弁護士に求められるスキルや仕事の進め方は大きく変わっていくと思います。これまでの法律事務所や弁護士のあり方にとらわれず、法律という専門性を活かしながらどう社会と関わっていくかを模索するヒントが、ここでならたくさん得られるのではないかと思います。

